

日本ジオパーク認定証授与式が新潟県糸魚川で行われました。(今年8月14日)



尾池和夫委員長(元京都大学総長)より認定証を授与される佐藤市長

ジオパークを知ろう!

阿蘇地域は昨年 日本ジオパーク認定を受けました。

世界ジオパーク認定への挑戦

ジオパークとは、科学的に見て重要で貴重な地質や地形、いわゆるジオ(地球)活動からできた地質遺産を見どころにした自然公園です。

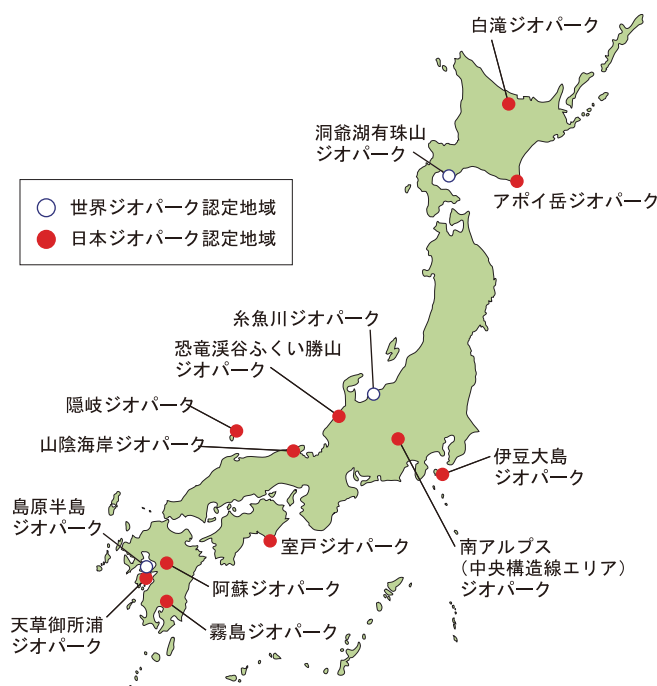
ジオパークは、ユネスコの支援により2004年に設立された世界ジオパークネットワークにより推進されています。

世界最大級のカルデラや日本一の草原を有する阿蘇地域としては、ぜひ、

世界ジオパークネットワークに加盟し、ジオパークのメリットを大いに活かしながら、阿蘇の壮大な自然を保全していく体制を築き、より安心したかたちで次世代へつなごうという考えです。ジオパーク認定のメリットは、地質遺産の保全、環境教育と普及、観光資源としての活用が主に挙げられます。認定されると一定以上の地質遺産としてのレベルが保証され、地名度が向上し、価値の高いブランドが与えられることとなります。訪問者の増加が見込まれ、地域の活性化が期待されます。

平成21年5月、阿蘇郡市、山都町を範囲とした阿蘇ジオパーク推進協議会が設立。阿蘇地域振興デザインセンターを事務局に、行政、研究機関、教育、環境、観光の関係団体、顧問によりメンバーが構成され、平成21年6月に、世界ジオパーク認定の申請。見事同年10月28日に認定が決定しました。

日本ジオパークは14地域 うち世界ジオパークは3地域



現在、日本では14地域が日本ジオパークに認定されています。平成20年12月に、洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島、アポイ岳、南アルプス中央構造線エリア、山陰海岸、室戸の7地域が日本ジオパークに認定。その後、洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島の3地域が世界ジオパークネットワークに申請され、平成21年8月、世界ジオパークに認定されました。平成21年10月、恐竜渓谷ふくい勝山、隠岐、阿蘇、天草御所浦の4地域が日本ジオパークに認定。平成22年9月、霧島、伊豆大島、白滝が新たに日本ジオパークに認定されました。なお、世界を見ると、世界ジオパークは21カ国66カ所あります。

ジオサイト（一部を紹介）

中岳火口は直径約600m、深さは約130mあり、今なお活動し噴煙を上げています。



火口縁の遊歩道から、27～9万年前から繰り返された噴火の跡、まさしくジオ(地球)活動を表す光景が見れます。



火山灰と噴石から砂漠を思わせる砂千里。噴火のすさまじさを物語っています。



ジオパークは次のように定められています

- ・地域の地史や地質現象がよくわかる地質遺産を多数含むだけでなく、考古学的・生態学的もしくは文化的な価値のあるサイトも含む、明瞭に境界を定められた地域である。
- ・公的機関・地域社会ならびに民間団体によるしっかりした運営組織と運営・財政計画を持つ。
- ・ジオツーリズムなどを通じて、地域の持続可能な社会・経済発展を育成する。
- ・博物館、自然観察路、ガイド付きツアーなどにより、地球科学や環境問題に関する教育・普及活動を行う。
- ・それぞれの地域の伝統と法に基づき地質遺産を確実に保護する。
- ・世界的ネットワークの一員として、相互に情報交換を行い、会議に参加し、ネットワークを積極的に活性化させる。

(引用：日本ジオパークネットワーク公式ホームページ)

■世界遺産との違い

ジオパークは、ユネスコが支援する世界ジオパークネットワークが推進するものです。世界遺産は、条例に基づいて保全・保護を重視するのに対し、ジオパークは保全と活用（地域の振興）を重視します。ジオパークでは世界遺産のように場所が重要なのではなく、ジオツーリズムなどの地域の人々の活動が重視されます。評価においてもその活動を行う人や運営組織がポイントとなり、「世界遺産より簡単」という誤解があるようですが、実際には認定にあたって越えるべきハードルの数は世界遺産よりも多いこととなります。

■世界ジオパーク認定へ向けて

阿蘇ジオパークは世界ジオパークの認定に向け、申請準備を進めトライしましたが、候補をノミネートする日本ジオパーク委員会の審査で、「今回は見送り」という結果になりました（9月14日発表）。本年は室戸（高知）が、3度目の挑戦で、世界ジオパークへ推薦されることになりました。審査講評として、「室戸は、住民のジオパークへの理解が深まっていた。阿蘇は、ジオパーク関連の案内板整備などが進んでおらず、訪問客への対応が十分ではない」と指摘。今後はこれを課題に改善に努め、また来年、申請を目指します。

■阿蘇ジオパークの事業計画

【短期的事業】

- ・阿蘇ジオパーク・シンポジウムの開催、地元住民への普及啓発
- ・様々なジオサイトを用いたストーリー性のあるジオツアープログラムの開発
- ・新たな観光素材や学習素材としての活用と保護活動への取り組み
- ・ジオツアーなどを案内する専門的なガイド育成

【長期的事業】

- ・ジオツアープログラムを活用した付加価値のある旅行商品の開発
- ・環境問題に関する教育・普及活動の実践
- ・環境・景観に配慮しジオサイトを確実に後世へ継承する活動

問い合わせ先 阿蘇ジオパーク推進室 (財)阿蘇地域振興デザインセンター ☎ 22-4801